

膵臓がん

1. 診断

(1) 精密検査(確定診断) ※詳細は担当医にお聞きください。

腹部超音波(エコー)検査、CT(マルチスライスCT/MDCT)検査、MRI検査(磁気共鳴胆管膵管撮影/MRCP)*、超音波内視鏡検査/EUS、内視鏡的逆行性胆管膵管造影/ERCP、膵管内超音波検査/IDUS、経皮経肝胆道造影/PTCなどの画像検査と腫瘍マーカー検査を組み合わせて行います。

多良間診療所では困難ですが、宮古病院または徳洲会病院で可能です。また、本島のがん診療連携拠点病院(☎P41)でも可能です。

(2) 病期判定

治療の方針を決めるために、病期(ステージ/stage=病気の広がり、がんの進行の程度)を決定することが必要です。

宮古病院または徳洲会病院で可能です。

*MRI検査

巨大な磁石の中に入って、体のさまざまな部分を撮影する検査です。ベッドに寝て穴の中に入り、FMラジオなどで用いられている電波を体に当てて、体の中の様子を画像化します。体の縦、横、斜め、輪切りなどの画像が得られます。放射線を使いませんので、被曝はありません。

2. 治療 ※詳細は担当医にお聞きください。

(1) 手術

もし手術が可能な病期であれば、多くの場合、まずは手術をします。多良間診療所では困難ですが、宮古病院で可能です。

(2) 放射線療法(がんの治療用の放射線を当てて、がん細胞を破壊して、がんを消滅させたり小さくする治療)

病期や病状によっては、放射線治療が必要になることがあります。化学療法と併用されることが多く、その場合は化学放射線療法と呼ばれます。

宮古医療圏(多良間村、宮古島市)では困難なので、本島の放射線療法が可能な病院で治療を受けることとなります(☎P45)。

(3) 化学療法(抗がん剤、分子標的治療薬など)

手術が成功しても、手術後に化学療法が必要なことがあります(術後補助化学療法)。また病期によっては、最初から化学療法を行う場合があります。

多良間診療所では困難ですが、宮古病院または徳洲会病院で可能です。

(4) 黄疸に対する処置

黄疸がある場合、内視鏡を用いて胆管にステント(プラスチック製あるいは金属製の管)を挿入する方法(内視鏡的胆道ドレナージ/EBD)や皮膚から肝臓を介して胆管にステントを留置する方法(経皮経肝胆道ドレナージ/PTBD)を用いて、胆汁を体外へ出す処置をすることがあります。

多良間診療所では困難ですが、宮古病院または徳洲会病院で可能です。

